

(仮称)国際センター駅北地区複合施設基本計画(中間案)に
寄せられた意見の概要と市の考え方について

意見総数：69 件

■複合施設全体に関するもの

(27 件)

番号	中間案に対する意見の概要	仙台市の考え方
1	市中心部との回遊性を図る為、定禅寺通りからの利便性を考えて西公園の蒸気機関車置き場から、広瀬川に県美術館、仙台二高方面へ橋(歩道、輪道) の設置をお願い出来ないか。音楽ホールへ、広瀬川の川沿い散策しながら歩いて。	令和 5 年 3 月に策定した「仙台・青葉山エリア文化観光交流ビジョン」の中で、青葉山エリア内及び都心との回遊性の向上に向けた取組みの方向性を示しています。今後、周辺地域を含めた空間づくりの方向性や歩行環境の快適なあり方の検討を進めてまいります。
2	中間案は「令和 13 (2031)年度中の竣工・開館」としているが本施設にふさわしい開館時期は、東日本大震災 20 周年にあたるとともに第 11 回仙台国際音楽コンクールが開催される令和 13 年である。竣工・開館時期を「令和 12 年度中」もしくは「遅くとも令和 13 年 3 月」とすべきである。	竣工・開館時期が遅れることのないよう進めていくことが重要と考えていますが、令和 6 年度からの建設業界の労働規制強化などもあり、令和 13 年度中の竣工・開館という想定スケジュールを早めることは、現時点では困難であると認識しています。引き続き適切な進捗管理のもと、着実な整備を進めてまいります。
3	基本計画は施設へのアクセスについて「多くの来館者が地下鉄を利用することを想定し「公共交通機関で来館していただくよう呼びかける」と他人事のような記載にとどまっている。しかし、2,000 名の来館者が一度に退場する際の地下鉄の輸送力(運行ダイヤや混雑)と国際センター駅ホームの狭さを考えると早期に交通局と協議しハード・ソフトの両面から対策を検討する必要がある。	基本計画におきましては、地下鉄東西線国際センター駅との関係について、「公演終了後に人が集中することによる混雑回避を考慮した動線や滞留空間を検討する」としてしています。本施設に起因して地下鉄に大きな混乱が生じることがないように、整備段階・開館後の双方において、交通局と協議・調整を行ってまいります。
4	施設の周辺は多くの施設がありながら物販や飲食施設が極めて脆弱で観光客も含め多くの方が滞在することがあまりないエリアとなっている。中間案が示すような芸術文化や災害文化に接する人が行き交うためには物販や飲食施設の充実が欠かせない。上野公園が見本になると思うが本施設についてもそうした機能の充実を図り博物館から国際センター駅を經由して国際センターを含めて利用者の回遊や誘導を図る方向で施設を整備してほしい。「クワイエットスペース」はただの空き地にならないか。スタバがあるだけで賑わいが全く違うと思う。	飲食等につきましては、施設内にレストラン、カフェを設けることを計画しています。また、気軽に立ち寄りや通り抜けができる開かれた施設づくりを行うとともに、周辺施設との共同企画による回遊促進の仕組みづくりなどについても本計画に掲げています。 広場エリアは、賑わいをもたらす様々な催しを開催できる場所とする計画であり、多くの方が訪れ、エリア全体の活性化に寄与する施設となることを目指してまいります。

番号	中間案に対する意見の概要	仙台市の考え方
5	<p>中間案ではトイレの整備について記載されている。男女共用トイレの導入も含め休憩時間がトイレタイムで終わらずロビーでの語り合いの時間となるよう思い切った量的なトイレの設置を望む。</p>	<p>トイレにつきましては、「開演前・休憩中の限られた時間に円滑な利用がなされるような工夫を行う」としており、トイレの数について、ホールの収容人数や来場者の男女バランス、公演の休憩時間に利用が集中すること等を想定のうえ、適切な数を整備するなど、利用者の皆様にとって使いやすい施設となるよう引き続き検討を進めてまいります。</p>
6	<p>建物および設備の耐用年数</p> <p>①鉄骨・鉄筋コンクリート造：耐用年数 50 年</p> <p>②鉄骨造：耐用年数 38 年</p> <p>③電気設備・給排水設備・衛生設備・ガス設備・冷暖房設備：耐用年数 15 年</p> <p>④消火設備・排煙設備・火災報知設備：耐用年数 8 年</p> <p>前記の耐用年数を考慮しながら、建設にかかる費用負担は、いくらかかるかを算出するべきではないか。</p> <p>仮に①の 50 年間維持するとした場合</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 建設（新築）にかかる工事費 2. ③の改修費が 3 回 3. ④の改修費が 6 回 4. 50 年間の水光熱費 5. 職員の給与 6. 建物本体の改修費 7. 50 年後の解体費用（試算） 8. 貸し出しで得られる収入 <p>これらの合算費用はいくらなのか？それを 50 年で割ったのは、年額いくらになるのか？</p> <p>といった、経費を試算して、初めて建設が可能なのかを見極める必要があると考える。安易に箱モノをつくる建築費だけではなく、将来の若い世代へ受け継がせられることを考慮して、建設を進めて頂きたい。</p>	<p>本市では、安心して利用できる公共施設を将来にわたって持続的に提供するため「仙台市公共施設総合マネジメントプラン」を策定しており、本施設も当プランに則って計画的な管理・保全を行うことを予定しています。なお、当プランでは、大規模文化施設の計画保全年数（公共施設を適切な保全により使用していく予定の年数）を 80 年としています。</p> <p>設計や管理運営の方針を今後固めていく段階にありますことから、現段階で施設の維持管理や大規模改修にかかるコストを算出することは困難ですが、設計者選定においてコスト縮減に関する提案を求めるとともに、施設運営においても稼働率の向上、外部資金獲得など収入増の取組み、業務改善など支出減の取組みを行うなど、イニシャルコスト、ランニングコストの両面で可能な限り自治体の負担を減らせるよう努めてまいります。</p>
7	<p>「(3) 音楽ホールの事業」(P13) に関して、「② 活力」にある「青葉山エリアの魅力向上」(P15) については、緑化フェア終了後の仙臺緑彩館に学び、複合施設そのものがどのような誘客機能（それ自体が持つ、来訪意欲を喚起させる仕掛け）を持ちうるかについて、より具体的に検討し</p>	<p>本施設は「人・文化・まちを育む創造の広場」を基本理念に掲げ、いつ来ても居場所があり、文化芸術や災害文化との出会いのある開かれた施設づくりを重要なポイントとして掲げています。誰もが気軽に参加できる文化芸術イベントや、災害への備えについて楽しく学べるイベントな</p>

番号	中間案に対する意見の概要	仙台市の考え方
	<p>ていただきたい。青葉山エリアの観光交流拠点・憩いの場の機能は、仙臺緑彩館（およびテナントのカフェ）が既に担っているようにも思われるので、同じ青葉山エリアに、極めて近接して立地する予定の複合施設は、仙臺緑彩館にない機能を有した方が良いのではないかと思う（仙臺緑彩館との連携による相乗効果があるとなお良いのではないか）。震災メモリアル拠点としての機能は、その一翼を担えるものと思うので、国内外から誘客が可能となるように、市役所内部や東北エリア、復興庁などとも連携して、訪れたい施設を目指してほしい。</p> <p>複合施設が、市民や県民の音楽活動のための利用に終始することなく音楽フェスや幅広い芸能活動に活用いただけることも、青葉山エリアへの来訪促進になる可能性があると考えられるので、イベンターなどの意見も参考にさせていただけたらと思う。</p>	<p>ど、音楽ホールと中心部震災メモリアル拠点の複合施設というこの施設ならではの特徴を生かした形で、青葉山エリアに新たな賑わいをもたらす施設にしてみたいと考えています。</p> <p>仙臺緑彩館をはじめとする各種機関・施設との連携も重要であると考えており、様々な主体と文化のネットワークを形成し、市民はもとより広域からも人を呼び込める施設を目指しており、今後の管理運営指針の策定過程の中でさらに具体的に検討してまいります。</p> <p>また、中心部震災メモリアル拠点は、各地の伝承施設や国内外の各種機関等と連携した事業展開を目指しており、音楽ホールは、クラシックやオペラ・バレエに重点を置くだけでなく、ミュージカルやポピュラー音楽など多様な舞台芸術活動にも利用できる施設とする計画となっております。青葉山エリアへの来訪促進が図られるよう、幅広い関係団体等にもご意見を伺いながら検討を進めてまいります。</p>
8	<p>音楽ホールと中心部震災メモリアル拠点の両方の建設自体に反対する。理由は、私も私の家族も絶対にそのような施設を利用することはないだろうと確信するからである。年金生活で、高い金を払ってまで音楽ホールで音楽を聴く余裕はないし、震災のメモリアルも不要。そろそろ皆さん忘れた方が良くないんじゃないか？いつまでも不幸を引きずり続ける必要はない。それに、そんなものに大金を投じる余裕があるのなら、敬老乗車証の負担率引き上げを見合わせて欲しかった、と思っている人は多いのではないか？そもそも、市民に意見を訊くのなら、建設自体の方針を決定する前にして欲しかった。今さら、取って付けたように、「ご意見を」もないのではないか。正に、今流行りの、「不適切にもほどがある」だろう。とにかく、音楽ホールにも震災メモリアル拠点にも、建設自体に反対している人は一杯いると思う。</p>	<p>今般の複合施設は、長年にわたって市民の皆様からご要望のあった 2,000 席規模の音楽ホールと災害を乗り越える文化を日常生活へ定着させる機能を担う中心部震災メモリアル拠点の複合施設であり、本市にとって重要な施設になると考えています。</p> <p>多くの方が気軽に自由に訪れ、文化芸術や災害文化との出会いのある開かれた施設とする計画であり、年齢や心身の特性、国籍などを問わず、様々な方が憩い、集うことのできる空間づくりを目指してまいります。</p> <p>また、本施設の整備に当たりましては、市のホームページで常時意見を募集してきたほか、市民向けシンポジウムの開催や関係者へのヒアリングなども行い、多くの方々から幅広くお声を伺ってまいりました。今後とも、整備の各段階において、市民の皆様のご意見を丁寧に伺いながら、多くの方に必要とされる施設を目指してまいります。</p>

番号	中間案に対する意見の概要	仙台市の考え方
9	<p>音楽ホールと中心部震災メモリアル拠点、本当に複合して相乗効果を生むのか？正直、疑問だ。一つの建物ではあるが、用途は完全に分かれているということか？</p> <p>災害について学ぶことはとても大切だが、例えば市外（県外）からワクワクしながら音楽を聴きにくるマインドのときに、「辛く悲しい記憶」や「頑張っている姿」が、逆にノイズになってしまわないのか。そういう掛け違いが起こると、被災者のみならず被災地域に関わる関係者をがっかりさせてしまうのではと懸念がある。</p> <p>市民や来訪者の気分（テンション）の違いを繊細に受け止められる施設であってほしい。何でもかんでも、交流や観光に結びつけてはいけないと思う。</p>	<p>音楽ホールは本市の文化芸術の総合拠点、中心部震災メモリアル拠点は災害文化の創造拠点として、それぞれの役割を十分に発揮していくとともに、複合整備の効果を感じていただけるような連携事業を展開してまいります。災害の伝え方についても、「辛く悲しい」面だけではなく、災害が起きてもそれを乗り越えていく姿勢を感じていただけるような展示や設えにしたいと考えており、音楽ホールを目的に本施設を訪れた方にも災害文化に触れていただけるような工夫を凝らしてまいります。</p>
10	<p>「公園敷地・河川敷との関係（概要版P6）」とあるが、この機会に広瀬川の河川敷などの整備も行うのか？</p> <p>広瀬川や青葉山などの自然環境や植生などとの関係をどのように考えていくのか、具体的な案をもう少し知りたい。</p>	<p>本計画においては、周辺と調和した施設整備に関する考え方の方向性について記載していますが、施設整備と合わせた河川敷の整備については現時点で具体的な方針は決定していないところです。</p> <p>今後、広瀬川や青葉山の自然環境など周辺地域を含めた空間づくりの検討を進めてまいります。</p>
11	<p>楽しみにしている。</p>	<p>本施設の基本理念「人・文化・まちを育む創造の広場～文化芸術と災害文化がつなぐ 人と人、過去と未来、仙台と世界～」のもと、「仙台の文化芸術の総合拠点」となる音楽ホールと、「災害文化の創造拠点」となる中心部震災メモリアル拠点がそれぞれ固有のミッション（使命）を果たしつつ、効果的な協働事業を実施することで、市民の皆様はもとより広域からも人を呼び込み、世界にもつながる施設を目指してまいります。</p>
12	<p>複合施設のあり方として、音楽ホールと中心部震災メモリアル拠点はそれぞれが固有の役割を担いながらも、相互に連携した事業を有機的に展開とあるが、それぞれの施設で想定する事業は記載されているが、複合施設としての連携・協働事業に関しても想定する事業等も明記できないだろうか。両施設の連携・協働事業がこの複合施設の最大の特徴でもあり、両施設を単なる「併</p>	<p>本市においては、これまでも「音楽の力による復興センター・東北」と協働するなど、文化芸術の側面から東日本大震災にアプローチする取り組みが行われているところですが、引き続き文化芸術活動や伝承・防災活動などに携わっている方々との意見交換も行いながら、今後の管理運営指針の策定過程の中で両拠点の連携・協働事業について具体的に検討してまいります。</p>

番号	中間案に対する意見の概要	仙台市の考え方
	<p>設」ではなく、「複合」とした趣旨・目的もここにあっており、是非検討願いたい。決して両施設が一つの屋根の下にある二つの施設とならないよう十分に意を用いてもらいたい。</p>	<p>また、本施設の基本的な考え方として、両拠点連続性を持ってつながる一体性の高い施設として計画することとしており、訪れた来館者が思いがけず両拠点の様々な活動に出会うことができるような空間構成とすることとしています。両拠点が複合整備されることにより、より大きな相乗効果が得られるよう、今後、設計を進めていく中で適切な空間のあり方について検討してまいります。</p>
13	<p>仙台市内の合唱団に所属している。合唱や演奏など音楽を楽しむ者だが、新音楽ホールと震災メモリアル拠点との複合施設の建設計画を拝見して、素晴らしい企画に待ち遠しい思いで期待をしている。</p> <p>青葉山の自然豊かな場所、近くには大学や文化施設もあり、地下鉄、バスのアクセスも良い地域に、人々の交流の場としてこのような施設が建設され活用されたらより豊かになると思われる。</p> <p>市民の多くの方々の賛同が得られるように、と希望している。</p>	<p>本施設の整備予定地は、地下鉄東西線国際センター駅に隣接し、優れたアクセス性を有するとともに、周辺には文化・歴史・学術資源が集積し、豊かな自然環境にも恵まれた場所でございます。</p> <p>音楽ホールと中心部震災メモリアル拠点の複合施設として魅力ある事業展開を図りつつ、周辺施設との有機的な連携も図りながら、市民の皆様の新たな交流拠点となるよう整備を進めてまいります。</p>
14	<p>期待している。他所から見ても恥ずかしくない良い物を作ってほしい。仙台が益々発展するよう祈っている。</p>	<p>本施設の基本理念「人・文化・まちを育む創造の広場～文化芸術と災害文化がつなぐ 人と人、過去と未来、仙台と世界～」のもと、「仙台の文化芸術の総合拠点」となる音楽ホールと、「災害文化の創造拠点」となる中心部震災メモリアル拠点がそれぞれ固有のミッション（使命）を果たしつつ、効果的な協働事業を実施することで、市民の皆様はもとより広域からも人呼び込み、世界にもつながる施設を目指してまいります。</p>
15	<p>今後、計画・設計等に関してより具体的な検討が進んでいくが、今後の計画策定及び設計の過程において、折に触れて計画や設計等の公開や、市民からの意見聴取の場を設定していただけるとありがたい。いちユーザーの視点から何かヒントになるような意見を提供できるかもしれないし、オープン前からユーザーになりうる層とのエンゲージメント（好意的な関係性）を構築しておくことで、新音楽ホール開館後の活性化にもプラスに働くものと期待できる。</p>	<p>本施設の整備に当たりましては、幅広く市民の皆様のご意見を伺うため、市のホームページで常時意見を募集してきたほか、市民向けシンポジウムの開催や関係者へのヒアリングなども行い、様々の方のお声を幅広く伺ってまいりました。今後とも、整備の各段階において、市民の皆様や関係団体等のご意見を丁寧に向いながら進めてまいります。</p>

番号	中間案に対する意見の概要	仙台市の考え方
	<p>まちの文化レベルを支え向上させていくにあたり、環境整備の上で行政機関が果たす役割は大変大きなものだが、一人一人の市民、まちで活動する芸術関連の市民団体も文化を形作っていく担い手となる。市民団体の一つとして、より活動を充実させることで仙台のまちの魅力を高められればと思い、以上のとおり提言する次第である。</p>	
16	<p>先進的で多方面にわたって丁寧に検討され、方向性が示されていること、宮城県に比べ関係者の意見を丁寧に聞く姿勢を高く評価する。手数はかかるが今後も宜しく願いたい。</p>	<p>本施設の整備に当たりましては、幅広く市民の皆様のご意見を伺うため、市のホームページで常時意見を募集してきたほか、市民向けシンポジウムの開催や関係者へのヒアリングなども行い、様々の方のお声を幅広く伺ってまいりました。今後とも、整備の各段階において、市民の皆様や関係団体等のご意見を丁寧に伺いながら進めてまいります。</p>
17	<p>この施設は、ハード、ソフトとも、様々な関係者が協働して、構想、検討、実現、運営し、長期間にわたって文化芸術創造、発展の中核になるべきものと理解している。</p> <p>従って、ハード面は長期間、変更や修正が生じないよう、妥協せずしっかりしたものとして完成させる必要があると思う。</p> <p>ソフト面の具体化については、文化芸術推進基本計画の重点プロジェクトとして、内容により、上記と同様「完成度が重要な項目」「目標、方針、手順・計画など諸条件をしっかり整備して実践しながら育てていく項目」「あえてチャレンジな項目や目標を示し、試行錯誤を前提として、次世代、あるいは連携強化に託す項目」を意識して取り組んでほしいと思う。</p>	<p>ハード面については、今後、多くの専門家の知見・知恵を結集させながら、市民の皆様や様々な関係者のお声も踏まえて具体化してまいりたいと考えています。</p> <p>また、本施設で取り組む事業等、ソフト面に関しましては、本市の文化芸術振興全体の方向性を定めた「仙台市文化芸術推進基本計画」に基づきながら、具体的な検討を進めてまいります。</p>
18	<p>長年関係者が期待していた「音楽ホール」のイメージが、「国際センター駅北地区複合施設」という用語に隠れ、またメディアへの取り上げられ方が弱く十分浸透していないと感じるので、今後の具体化の過程で市民参画により、適切なイメージ化（ネーミング、キャッチフレーズ等）に取り組んでほしい。</p>	<p>本施設の特徴や力を入れていく点などを市民の皆様に分かりやすい言葉で周知していくことは重要であると認識しており、本施設の名称も含め、今後着手する管理運営指針の策定過程において具体的に検討してまいります。</p>

番号	中間案に対する意見の概要	仙台市の考え方
19	<p>人脈が広く企画力に優れた人材の配置、育成は「最重要事項」なので、慎重かつ戦略的に取り組んでいただきたい。ほぼ同時期に県民会館が同様の使命をもって整備されるのは、「100年に一度」以上のチャンスでもあるので、連携方法なども考慮して、評価の高いホール（東北以外、東北エリア、県内エリア）と連携し、県内、市内のホールのレベルアップにもつなげてほしい。</p>	<p>音楽ホールおよび中心部震災メモリアル拠点双方において、多様な事業の展開を担う専門的人材が重要であると認識しており、本施設においても、早い段階から、専門的人材の確保や育成に努めてまいりたいと考えています。</p> <p>また、開館後の企画制作等を見据え、他都市の先進的なホール施設をはじめ、県内、市内のホールも含め、多様な主体とのネットワーク構築にも取り組んでまいります。</p>
20	<p>先行事業展開について（P72）、貴重な資源である、仙台市の音楽やイベント関係者・団体、アーティストなどの要望、アイディア、協力などを十分得られるよう、協議体を作り、一過性ではなく、特色があり、かつ未来へ繋がる種まきのようなものになることを期待する。</p> <p>複合施設であることや宮城県も同時進行なので、例えば、長く愛される、東北の未来をイメージした、これまでになかった舞台芸術を創作する。（10～15分程度 高度な技術を必要としない中高生合同でもできる 様々な編成で演奏可能）</p>	<p>本施設の整備過程においては様々な先行事業の実施を想定していますが、事業モデルの構築、ノウハウ蓄積、ネットワークの形成など、開館後の事業展開につながるようなものとしてまいりたいと考えています。</p> <p>音楽ホールと中心部震災メモリアル拠点の複合施設という特性も生かし、本施設ならではの創造・発信を行ってまいります。</p>
21	<p>施設そのものによる賑わい創出と併せ、エリア、地域連携の仕組みを作ることにより、新しい賑わい作りができるとともに、情報共有により地域の課題解決やリスク回避にもつながると思う。</p> <p>施設の賑わい⇒よくある利用者アンケートではなく、協議体のようなものでPDCAを機能させる。</p> <p>エリア内の関係機関の協力関係構築⇒県美術館、博物館、萩ホール、国際センター、青葉山公園の他に東北大、仙台二高、尚綱など近隣の学校市民センター、町内会など</p>	<p>青葉山エリア全体の活性化のため、エリア内の各種機関・施設との連携は重要であると考えており、施設開館に向け、協力体制のあり方などを今後具体的に検討してまいります。</p>
22	<p>市と共同で文化振興施策を推進する団体について（P60）、具体的内容は不明だが、多様、柔軟、包摂的、効果的な運営エリアになることを望む。是非ハード、ソフトともに素晴らしいホールを作ってほしい。</p>	<p>運営エリアについては、設計や管理運営指針の策定を進める中でさらに具体的な検討をしていますが、利用者の利便性や円滑で効果的な事業実施、部門間の連携のしやすさなどを考慮し、適切な配置等に努めてまいります。</p>

番号	中間案に対する意見の概要	仙台市の考え方
23	<p>目指す施設像の「気軽に自由に訪れる」は、建築空間の工夫や運営・他施設との連携で実現が可能と思われるが、「仙台オリジナル」として人を呼び込む、「世界とつながる施設」を目指すためには、明解な戦略がないと実現できないと思う。</p>	<p>文化芸術と災害文化の複合施設はこれまでに例のない施設ですが、両拠点の連携・協働により、相乗効果の発揮された仙台ならではの施設とすることを考えています。今後、事業運営の詳細を検討する管理運営指針の策定過程において、具体化を図ってまいります。</p>
24	<p>音楽ホールの利用者となる立場だが、待ち望んでいた施設の計画が示されていて大変嬉しく思う。</p> <p>また、国際センターとの相互補完関係はとても頼もしく思われる。以前より国際センターに不足を感じていた。</p>	<p>音楽ホールは、高いクオリティを持った本格的な実演芸術作品の上演にふさわしい環境を備えると同時に、そのようなホールを市民の皆様にもご利用いただくことで、地域の文化芸術環境の充実や多様な人材の育成につなげ、仙台の文化芸術のさらなる発展や交流人口・関係人口の拡大に貢献してまいります。</p> <p>また、本施設と仙台国際センターは設置目的の異なる施設とはなりますが、同センターのみでは会場が不足する大規模学会の開催にあたっては、適切に連携を図ってまいります。</p>
25	<p>震災発生直後から音楽の力による復興センター・東北の、復興支援の取組みを拝見している。13年間も途絶えることなく取組みを継続してきた同センターが蓄積した経験や磨いてきたスキルは、他で代えることのできない貴重なもの、言ってみれば「仙台の宝物」だと思う。</p> <p>さらに、同センターが実施している取組みは、震災復興支援に際してのみ求められるものではなく、いまや市民が（個々人としてではなく）地域コミュニティの一員として生きていくために必要なインフラであるとさえ言えると思う。</p> <p>新たに計画されている複合施設が、そうした取組みの拠点となって、市民やアーティストの集う場となること、また、同センターの貴重な経験・スキルの、他の担い手との共有・伝達の間となることを願う。</p>	<p>本施設は、東日本大震災からの復興の過程で明らかとなった文化芸術の力を、社会の様々な分野に生かす拠点となることを基本方針の一つとしており、アウトリーチ事業の展開や担い手育成・ネットワーク形成などの事業を積極的に行っていく方針です。</p> <p>「音楽の力による復興センター・東北」の取組みにつきましても、こうした本施設の事業方針と親和性の高いものであり、同団体が培ってきた蓄積を生かせるよう、今後の管理運営指針の検討や先行事業の実施などにおいて、積極的に連携を図ってまいりたいと考えています。</p>
26	<p>音楽ホールと震災メモリアル拠点の複合施設が仙台に誕生することに、大きな期待を寄せている。そこが誰にも愛され利用される施設になり、そこで展開する文化芸術が、仙台のまちに活気と賑わいをもたらすことを願い、以下の意見を届ける。</p> <p>威圧感のある建造物、建築家の新規性を競い誇</p>	<p>豊かな自然や歴史的資源を有する青葉山エリアに立地する施設として、周辺の環境や景観と調和した施設となるよう建築上の配慮を行っていくとともに、年齢や心身の特性、社会的文化的背景等に関わらず誰もが安心して来館し、利用できるユニバーサルな施設となることを重視してまいります。いただいたご意見を参考としなが</p>

番号	中間案に対する意見の概要	仙台市の考え方
	<p>示するような建造物はもう要らない。</p> <p>テクノロジーを追いかけるうちに、自然環境の一部であるはずの人間の本性が疎外され、私たち人間は自ら居心地のよくない環境を生み出し続けてはいないだろうか？</p> <p>デリケートな人も生きづらい人も、障がいのある人も子どもも高齢者も、誰もが抵抗なく思わず吸い込まれていく建物、安心して寛げる空間を創出できたらと願う。</p> <p>機能性などいったん無視して言えば、自然素材で覆われすっぽり人を包み込むアマゾン住居、縄文の三内丸山遺跡、人のぬくもりと歴史を感じさせる雄大な古民家など、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有機的でノスタルジックな建物環境をイメージして創りながら、必要な機能性も内包するものなら、人々に親しまれ、視覚的にも新鮮に映るのではないだろうか。 ・自然環境と建物と人が優しく調和し、曲線的で包摂感とアートの遊び心ある建物楽しくて興味をそそられ、人々が集いたくなるだろう。一つの例として、オーストリアのアーティスト、フンデルトワッサーの建物を参考に挙げておきたい。 	<p>ら、多くの皆様に親しまれる空間となるよう、設計プロセスを進めてまいります。</p>
27	<p>全体として、とてもよくできた計画という印象を受けた。</p> <p>音楽ホールと中心部震災メモリアル拠点との「連携・協働事業」については抽象的に記載されているにとどまり、具体的な内容が、いまひとつ見えてこない。今後の計画課題なのかもしれないが、「国際センター」、「博物館」、「市中心部」など、幅広くどのように連携することによって相乗効果を生み出すことができるのか、できるだけ分かりやすくご検討いただきたい。</p>	<p>本市においては、これまでも「音楽の力による復興センター・東北」などにより、文化芸術の側面から東日本大震災にアプローチする取り組みが行われているところですが、引き続き文化芸術活動や伝承・防災活動などに携わっている方々との意見交換も行いながら、今後の管理運営指針の策定過程の中で両拠点の連携・協働事業について具体的に検討してまいります。</p> <p>また、青葉山エリアにある文化施設や市中心部との具体的な連携につきましても、今後、管理運営の詳細を検討する中で具体化してまいります。</p>

■音楽ホールに関するもの

(34件)

番号	中間案に対する意見の概要	仙台市の考え方
28	<p>仙台市が世界に誇れる音楽ホールを、国際センター駅北口に建設される事を期待している。</p>	<p>音楽ホールの大ホールにつきましては、「生の音源に対する音響性能を重視し、視認性に優れ、鑑賞空間として魅力あふれる2,000席規模のホール」とし、「大型のクラシック音楽等の公演に対応したコンサートホールとしても、またオペラやバレエなどの総合舞台芸術をはじめ多彩な実演芸術公演に対応した劇場としても、高いレベルで機能を発揮する新しいタイプのホール」とする計画としています。</p> <p>高いクオリティを持った本格的な実演芸術作品の上演にふさわしい環境を備えると同時に、そのようなホールを市民の皆様にもご利用いただくことで、地域の文化芸術環境の充実や多様な人材の育成につなげ、仙台の文化芸術のさらなる発展や交流人口・関係人口の拡大に貢献してまいります。</p>
29	<p>日立システムズホール仙台のパフォーマンス広場のような予約なしで利用できる設備を整えてほしい。</p> <p>現状パフォーマンス広場は土日など混雑化してしまう傾向だが、新しく同様設備が整えられればある程度緩和できるのではないか。</p>	<p>令和2年度に実施した市内ホール施設の体系整理では、青年文化センターは音楽ホールと同じく、新たな文化芸術の創造・発信に積極的に取り組む拠点と位置付けています。そうしたことから、新たなホールの公演機能や練習・創造支援機能を具体化する上では、それぞれの施設が適切に役割分担を図ることが必要と認識しており、音楽ホールにおいて、パフォーマンス広場と類似の機能を有する諸室は予定していないところです。</p> <p>一方で、今般の音楽ホールには、市民の皆様の日常的な文化活動の場として、計12室程度の練習室群を設ける予定であり、活動の目的に合わせてそれぞれの施設をお使いいただきたいと考えています。</p>
30	<p>音楽ホール着工時期は延期して欲しい。新築移転の宮城県民会館開館後の利用状況を見極め、新音楽ホールの利用予測を立ててからにするべき。</p>	<p>本施設の開館後は、老朽化が進む市民会館や戦災復興記念館のホール機能を更新しない方向で検討を進めており、また、新たな県民会館も現在の県民会館の建て替えでございまして、この前提のもと、令和2年度に需要想定調査を実施しており、十分な需要が見込めることを確認しているところです。</p>

番号	中間案に対する意見の概要	仙台市の考え方
31	<p>私は仙台市内のアマチュアオーケストラの団員として、活動を行っている。日頃から、仙台市の音楽ホール事情については、非常に情けない思いをさせられてきた。ここには、本格的な音楽専用のホールというものが一つもないので。</p> <p>その前に、この「音楽専用のホール」についての個人的な定義をさせていただくと、「適切な音響設計がなされている」、「最低でも 1,000 人以上の入場が可能」、「オルガン（もちろんパイプオルガン）が設置されている」という 3 点になる。近年、東京のサントリーホールを皮切りに、多くの都市にこの三つの条件を満たす音楽ホールがたくさん作られるようになった。しかし、「楽都」と呼ばれているはずのこの仙台市には、そのようなホールが一つもない。プロのオーケストラである仙台フィルが定期演奏会で使用しているのは、仙台市が建設したたった 800 人しか収容できない中ホールであるし、オルガンはない。そんなホールで国際コンクールを行っているということ自体が、とても恥ずかしいことではないか。東北大学の萩ホールは、きちんとシューボックス型のコンサートホールとして新たに改修されているが、残念なことにやはりオルガンがない。</p> <p>そんな状況だから、近年は、仙台市では外国からの本格的なオーケストラの招聘などは、全くなくなってしまっているはずだ。かつて、まだここにも本格的な音楽ホールがなかった時代には、カラヤン指揮のベルリン・フィルだって仙台にやってきたものだが、新たなホールが各地に出来てしまえば、川崎や札幌には日常的に外国のオーケストラが訪れているのに、それらの都市と肩を並べるこの仙台市では、そんな当たり前のこともかなわなくなってしまっている。</p> <p>遅きに失した感はあるが、この度の音楽ホールの建設計画については、そんな貧しい状況を一新させるだけのものがあると、喜びを隠せない。そこで、まず、その概要について知りたいと思ったのだが、新聞記事などで得られた情報によると、それは普通のコンサートホールではなく、建</p>	<p>本市では音楽をはじめ多様な文化芸術分野において市民による活発な文化芸術活動が展開され、「楽都仙台」「劇都仙台」といった都市個性が形づくられています。音楽ホールの大ホールは、こうした本市の文化芸術の状況およびホール施設の状況を踏まえ、「生の音の響きを重視し、クラシック音楽等に対応したコンサートホール形式」「オペラやバレエなどの総合舞台芸術をはじめ多彩な実演芸術公演に対応したプロセニウム劇場形式」の二つの形式に転換可能なホールを計画しています。このうち、コンサートホール形式については、視覚・音響の両面から親密感を得られやすいサラウンド型のホールとする計画であり、「楽都仙台」にふさわしいホール形状であると考えています。</p> <p>パイプオルガンにつきましては、可動式の舞台音響反射板・客席機構を有する転換型のホールとすることから、設置は予定していないところですが、多くの専門家の知見・知恵を結集させて、高い評価を獲得できるホールを目指してまいります。</p>

番号	中間案に対する意見の概要	仙台市の考え方
	<p>物内部をフレキシブルな構造にすることによって、劇場型のホールにも転換できるものだということが述べられていた。てっきり、サントリーホールのようなヴィニヤード型か、オペラシテイのようなシューボックス型か、どちらかのような本格的なコンサートホールが出来るのだと思っていたので、これには驚いたし、失望もした。</p> <p>私自身、仙台市ではなく、宮城県の関係で開かれた、新しいホールに関する公聴会のようなものに実際に出席して意見を述べた経験があるが、そこでは、オーケストラのコンサートだけではなく、オペラなどにも対応できるようなホールが欲しい、という意見が、オペラ関係者から出ていたように記憶している。これは、切実な問題なのでは、と思う。ただ、理想的には、コンサートとオペラではそれぞれ、同じ音楽ホールと言っても要求されるものが全く異なるため、コンサートホールとオペラハウスをそれぞれ別に建設する必要がある。実際に東京や札幌では、そのようなことが行われている。おそらく、仙台市の場合は、そこまでの予算はとても無理だったので、今回のような形に落ちついたのではないかと推察するが、それは非常に残念な決定だった。それでも、一応それがどのようなものかを確認するために、報道の中にあつた「さいき城山桜ホール」というのがどのようなになっているのか、そのウェブサイトで確かめた。その結果、それは、シューボックス型のホールの途中にプロセニアムの壁を降ろして、劇場型に変えるという、なんとも安直な構造だということが分かった。何より、それ以外に音響的な変更は加えられないようなので、劇場としてはかなり問題がありそうな気がする。</p> <p>しかし、1月に公開された資料をよく読んでみると、最後の方に、サントリーホールを建設した永田音響設計の方が執筆されたコラムが目に入った。それによると、やはりコンサートホールを劇場にも変換できるホールとして、アメリカの「シュタインメッツ・ホール」の名前を出されて</p>	

番号	中間案に対する意見の概要	仙台市の考え方
	<p>いた。そこで、やはりインターネットでこのホールのことを調べてみた。それは、先ほどの日本のホールとは段違いに壮大なプランで、ステージと客席と天井が一体化されたパーツを、丸ごと移動させて、2種類のホールに転換させていた。さらに、全ての壁面に、宮城県加美町の中新田バツハホールにあるような、残響時間を変えることができる装置が設置されている。これなら、ほぼ理想的な形で、コンサートホールとオペラハウスの両方を満足させられる施設になるはずだ。おそらく、仙台市が作ろうとしているものも、このような方策がとられるのではないかと推測する。</p> <p>ただ、そのアメリカのホールの動画などを見ると、この変換作業はとても大規模なもののように思える。おそらく、維持費もかなりかかるのでは、という気がする。そして、このような形では、サントリーホールやミュージア川崎、札幌 Kitara のように、ステージの後方にオルガンを設置することは、まず不可能だ。</p> <p>オルガンの件に関して気になるのは、どの資料にもこの楽器に関する記述がないことである。もしかしたら、今回のホールの計画には、オルガンの設置は含まれてはいないのか。もしそうだとしたら、最初に挙げた三つの要素の一つが欠けてしまう、ということになる。そのような事態になれば、今以上に「楽都」という呼び名の虚しさが募るだけである。そのようなことだけは、絶対に避けてほしいと、切に願っている。</p>	
32	<p>「文化芸術の総合拠点」と聞き、たいそう立派な施設が建つのかと思えば、聞こえてくるのは音楽ホールのことばかり。文化芸術＝音楽なのかと感じてしまう。他にも文化芸術の分野は有るのではないか。</p>	<p>文化芸術は音楽や舞踊、演劇などといった実演芸術や、美術などの視覚芸術、メディア芸術など幅広いジャンルを含むものであると認識しています。</p> <p>今回整備する音楽ホールの大ホール・小ホールは、生の音の響きを重視する一方で、オペラ・バレエ・演劇・舞踊・演芸など多彩な実演芸術公演に対応可能なものといたします。また、音楽ホールは文化芸術の持つ力を社会の様々な分野に生かしていくことを基本方針の一つとしており、音楽にとどまらず様々な分野の文化芸術を事業</p>

番号	中間案に対する意見の概要	仙台市の考え方
		展開に活かしてまいりたいと考えています。
33	音楽ホールが必要だと声が上がっていた時代からは、状況が異なっている。宮城県も同規模の音楽ホールを建てる中、本当に二つも同規模のホールは必要なのか。	<p>本市におきましては、平成8年に「(仮称) 仙台市音楽堂基本計画」を策定したものの整備実現には至らなかったという経緯がございますが、平成26年に地元経済団体による「音楽ホール建設基金創設発起人会」が、平成27年に地元音楽団体を中心とする「楽都・仙台に復興祈念『2,000席規模の音楽ホール』を！市民会議」が発足するなど、東日本大震災後に改めて音楽ホール整備を望む多くの声を頂戴し、現在の検討状況に至っています。</p> <p>また、令和2年度に音楽ホールの需要想定調査を実施し、新たな県民会館の整備後においても十分な需要が見込めることを確認しています。本施設の開館後は、市民会館や戦災復興記念館のホール機能は更新しない方向で検討を進めており、これらのホールの受け皿にもなることから、必要な施設であると考えています。</p>
34	少子高齢化が問題と言いながら、少子高齢化に寄与する施設ではないものに多額の税金を投入する意味はあるのか。もっと子育て世帯が利用しやすい施設を計画しては。	<p>本施設では、乳幼児を含む子どもたちをはじめ、あらゆる人に文化芸術体験を届けることを事業の大きな柱とし、施設整備において重視するポイントの一つには「小さな子どもと一緒に親子で来館したいと思えるような施設づくり」を挙げています。文化芸術創造支援・活用エリアのワークショップゾーンには、気軽に立ち入ることができ、楽しく時間を過ごせるような「子どものための空間」を設ける計画としており、乳幼児・児童等を対象としたイベントの実施も想定するなど、次世代の育成に貢献する施設を目指してまいります。</p>
35	本当に音楽ホールは必要なのか。住民投票を実施してはいかがか。不要だという声がある中で、住民投票の結果、どちらの意向が多いのかは明確にしておく必要があるのでは。仮に住民投票を実施しないのであれば、何の根拠を持って、計画を推し進めるのか。	<p>これまで、パブリックコメント実施や市民向けシンポジウムの開催など、様々な機会を通じて幅広く市民の皆様のご意見を伺ってまいりました。今後の整備の各段階におきましても、市民の皆様のご意見を丁寧に向いながら検討を進めてまいります。</p>
36	仙台市ではクラシック音楽の著名オーケストラや演奏家の公演開催が近年極めて少ない。本施設はハード面からコンサートの開催増加の条件が整うことになるが、コンサートが開催される	<p>良質な実演芸術作品の上演については、音楽ホールで実施する事業例として掲げており、東北ではなかなか上演されないような先駆的・先進的な作品はもとより、他の文化施設との共同企</p>

番号	中間案に対する意見の概要	仙台市の考え方
	<p>ためにはプロモーションの力も大きい。施設の開設について内外に積極的なPRを行うとともに施設の運営者には東京の関係業界との連携も積極的に行ってほしい。</p>	<p>画制作などにより、単館では難しい大規模作品の上演なども検討してまいります。魅力ある事業展開に向けては、多様な主体とのネットワーク構築が重要と考えられることから、こうした点にも留意をしながら、事業の詳細を検討してまいります。</p>
37	<p>公益財団法人の仙台フィル(私的法人)の為に提供するのはおかしい。HPを見れば分かるようにバレエのバック演奏の協会を無理に財団法人にしている。私的財団に事務局を提供するのはどうしてか(P40)。</p> <p>音楽の都(P18)とあるが音大もなく兵庫のような宝塚もない文化である。札幌などは私的寄付でまとまったフィルハーモニーが沢山存在している(少なくとも3団体)。</p>	<p>本市では、様々な音楽振興事業を展開していることに加え、長年にわたり市民による音楽活動が盛んに行われており、こうした官民双方による音楽文化の充実を踏まえ、「楽都仙台」を都市個性の一つとして掲げているところでございます。</p> <p>仙台フィルハーモニー管弦楽団は、本市が出資している公益財団法人であり、定期演奏会をはじめ、子どもたちや障害のある方を対象とした演奏会の開催などを通じて本市の文化芸術の振興発展に寄与しています。また、仙台ジュニアオーケストラの指導や仙台国際音楽コンクールのホストオーケストラを務めるなど本市の文化行政と密接な関係性を有しており、「楽都仙台」の中心的存在として高い公益性を有していると認識しています。当該団体をレジデントオーケストラと位置付け、ともに成長・発展していく関係を築くことが、「楽都仙台」としての都市ブランドの一層の強化など、本施設や本市自体にもメリットをもたらすものと考えています。</p>
38	<p>東京も大きな劇場の運営が困難になり劇場が撤退している。又札幌より人口が少ない中で札幌より大きな収容人数2,000人はどうかと思う(札幌は1,000人収容で建築経費も安い)。札幌は現在隣接する歴史資料館などを閉鎖している(P22 博物館施設などと連携と書かれているが博物館は赤字である)。</p>	<p>2,000席規模の大ホールを整備することにつきましては、平成26年に地元経済団体による「音楽ホール建設基金創設発起人会」が、平成27年に地元音楽団体を中心とする「楽都・仙台に復興祈念『2,000席規模の音楽ホール』を！市民会議」が発足するなど、これまで多くの要望をいただいております。令和2年度に実施した需要想定調査においても十分な需要が見込めることを確認しています。なお、札幌市におきましては、1,100席の札幌市教育文化ホールのほか、2,302席の札幌文化芸術劇場 hitaru、2,008席の札幌コンサートホール Kitara、1,500席のカナモトホール(札幌市民ホール)など多くの優れた文化施設があり、本市としても参考としているところで</p>

番号	中間案に対する意見の概要	仙台市の考え方
		<p>ございます。</p> <p>近隣の文化・観光・交流施設等との連携につきましては、青葉山エリア全体の活性化に寄与するものであると考えられることから、今後、効果的な連携のあり方を検討してまいります。</p>
39	<p>バリアフリー化は当たり前であり、大気汚染への配慮等ライフサイクルアセスメントの具体性に欠ける（P37）。</p>	<p>ユニバーサルデザイン、環境負荷の低減、長寿命化への配慮とライフサイクルコストの低減等につきましては、本計画で掲げた基本的考え方を基に、設計の過程で詳細に検討してまいります。</p>
40	<p>各地の美術館に入って居るカフェなど売店を多く見学してきたがほとんど撤退しているか赤字で補填を受けて居る（P40 カフェやレストランスペース）。世界遺産の地区でさえワークショップに人が集まらない。人が来るのは初めだけだ。国際センターの会場不足は何回あったのかなども情報不足（P44）。国際会議などは zoom で行うのが常識になっていてあまり使われていないと聞いている。デジタル化で私達も zoom で講習を受けている。</p> <p>以上であるが、この時代箱物投資は如何なものか。</p> <p>市長の公約とは言え時代錯誤ではないかと思う。未来ある子供の給食費などを無料にしたり高齢者へのワクチン接種等を軽減したり人間への投資が必要だと考えます。私の近くには市民施設があり市が運営しているが音楽練習用部屋はあまり使われていない。</p> <p>翻って、震災後近くにある音楽団体（東京）が活性化のために小さな音楽ホールを作った、そのホールは若者バンドや歌手の利用があり開催の日には賑わっている。</p>	<p>施設内のレストラン、カフェにつきましては、誰もが気軽に訪れることができる開かれた施設づくりのために重要な役割を担うものと考えています。今般の複合施設は、誰もが日常的に集い、憩うことのできる心地よい空間となることを目指しており、飲食施設のあり方も含め、今後具体的に検討してまいります。</p> <p>また、仙台国際センターのみでは会場が不足し、隣接するせんだい青葉山交流広場も使用する大規模学会につきましては、これまで概ね年1回程度開催されております。</p> <p>本施設の開館後は、市民会館や戦災復興記念館のホール機能は更新しない方向で検討を進めており、これらのホールの受け皿にもなることから、必要な施設であると考えています。</p> <p>令和2年度には新たな県民会館を含む市内におけるホール施設の状況を踏まえた音楽ホールの需要想定調査を実施しており、十分な需要が見込めることを確認しているところであり、まち全体の発展に貢献する施設を目指してまいります。</p>
41	<p>市内であれば、ライブなどを行うゼビオアリーナ仙台や旭ヶ丘の青年文化センター、電力ホール、県民会館、仙台サンプラザホール、川内萩ホールなどが存在している。隣接する市にもライブイベントや演奏会を行える施設が存在している。</p> <p>これから少子高齢化を迎えつつある中で、劇的に演奏会やイベントが増える要素が少なくなると思われる。その様な状況で新たな音楽ホー</p>	<p>本施設の開館後は、市民会館や戦災復興記念館のホール機能は更新しない方向で検討を進めており、これらのホールの受け皿にもなることから、必要な施設であると考えています。</p> <p>令和2年度には新たな県民会館を含む市内におけるホール施設の状況を踏まえた音楽ホールの需要想定調査を実施しており、十分な需要が見込めることを確認しています。</p> <p>運営費用につきましては、稼働率の向上、外部資</p>

番号	中間案に対する意見の概要	仙台市の考え方
	<p>ルを作るとなれば、前述した施設の稼働状況や運営による収入等も考えなくてはならない。あくまで、将来を見据えた需要に対する供給は、どうなるかを考えなければならない。供給過多に陥れば、潰しあう事に成りかねない。</p> <p>そこで、各施設の運営者も交えての意見集約を行うことを望む。</p> <p>札幌ドームの例を取り上げると、2001年に500億円を投じて、世界初のサッカー場と野球場で使えるドームを建設した。ドームを使用するコンサドーレ札幌、日本ハムファイターズが一番の利用企業であった。</p> <p>利用料は、日本ハムファイターズが、年間25億円で札幌ドームの約1/3だったが、これは、他の球団がホームとして使用するドーム球場よりも高く、値下げを申し入れても、受け入れられなかったことから、契約満了した際に更新する事なく、日本ハムファイターズが自前で2018年に北広島市にドーム球場を作った。</p> <p>愛想をつかさされた札幌ドームは、閑古鳥が鳴くほど利用されなくなり、音楽イベントを使いやすくするために10億円を投じて工事を行ったが、すでに音楽ホールは沢山あり利用される事無く、赤字を積み上げている。</p>	<p>金獲得など収入増の取組み、業務改善など支出減の取組みを行うなど、可能な限り自治体の負担を減らせるよう努めてまいります。</p> <p>これまで、関係者へのヒアリングなどを通して幅広くご意見を伺ってまいりました。引き続き、さまざまな視点からのご意見を伺いながら検討を進めてまいります。</p>
42	<p>今回の音楽ホールの整備計画について計画が決まってから10年も経過し何時まで待てば建設されるのか？この計画が実行されるのであれば、10～20億の金額を懸けても100～200年もつ音楽専用ホールを建ててほしい。</p> <p>出来るならば、サントリーホールのような四方に観客が入れるような、音響効果の優れた、鑑賞しやすいホールを計画してほしい。また、観客席数は、2,600人以上は入れる大きさにしてほしい。</p> <p>それと一緒に、パイプオルガンも設置してほしい。</p> <p>40～50年で、建て替えするような建物では無駄なので、計画をしないでほしい。</p> <p>世界に誇るすばらしい、音楽ホールをお願いしたい。</p>	<p>本市では、安心して利用できる公共施設を将来にわたって持続的に提供するため「仙台市公共施設総合マネジメントプラン」を策定しており、当プランでは大規模文化施設の計画保全年数（公共施設を適切な保全により使用していく予定の年数）を80年としています。本施設も当プランに則って、長きにわたり利用される施設としてまいりたいと考えています。</p> <p>音楽ホールの大ホールにつきましては、「生の音の響きを重視し、クラシック音楽等に対応したコンサートホール形式」「オペラやバレエなどの総合舞台芸術をはじめ多彩な実演芸術公演に対応したプロセニウム劇場形式」の二つの形式に転換可能なホールとし、このうちコンサートホール形式につきましては、視覚・音響の両面から親密感を得られやすく、音楽を楽しむための</p>

番号	中間案に対する意見の概要	仙台市の考え方
		<p>様々な魅力を有する音楽空間とするため、「舞台の周りを聴衆が取り囲み一体感を感じられる、いわゆるサラウンド型のコンサート空間に転換する計画」としています。</p> <p>また、優れた音響性能を有するホールとするために、サントリーホールをはじめ国内外の様々なホールの音響設計に携わった事業者にも音響コンサルティング業務を委託し、様々な助言・提案を得ているところです。</p> <p>席数につきましては、大編成のオーケストラ公演や大規模な興業、文化芸術の全国大会などに対応することを前提に、市民文化団体を含む多様な主体が利用しやすいことや音響性能など様々な点を勘案し、2,000席規模のホールとする計画です。</p> <p>パイプオルガンにつきましては、可動式の舞台音響反射板・客席機構を有する転換型のホールとすることから、設置は予定していないところですが、多くの専門家の知見・知恵を結集させて、高い評価を獲得できるホールを目指してまいります。</p>
43	<p>私は合唱活動をしている。仙台市で演奏会を開くためホールいくつかの抽選予約を毎年しているが、前年に抽選をいれる。どのホールも100倍を越す事が多く、いつもはずれてなかなか演奏会を企画できない。</p> <p>また全日本お母さんコーラス全国大会に2回東北代表として参加したが、どちらも2,000名入る素晴らしいホールで感激した。</p> <p>全国大会は全国の都道府県で開催されるだが、宮城県はホールがないため開催できない。</p> <p>楽都なのに恥ずかしいなといつも感じていた。</p> <p>是非仙台市に大きな音楽ホールを建設していただきたい。</p>	<p>これまで仙台には、生の音源に対する音響を重視した大規模なコンサートホールや、舞台が広く設備の充実した、本格的なオペラやバレエの上演に適した劇場はありませんでした。音楽ホールの大ホールは、「生の音源に対する音響性能を重視し、視認性に優れ、鑑賞空間として魅力あふれる2,000席規模のホール」とする計画としており、これまで実現できなかった公演や大会を実現できる場としてまいりたいと考えています。</p> <p>貸館システムにつきましては、本市の様々な市民利用施設に導入されている「市民利用施設予約システム」とは異なる独自の予約方式の導入を検討するなど、文化芸術の総合拠点という位置づけおよび利用者のニーズを踏まえたものにしていきたいと考えており、今後の管理運営指針の策定過程の中でさらに具体的に検討してまいります。</p>

番号	中間案に対する意見の概要	仙台市の考え方
44	<p>市民合唱団で活動している。音楽ホールには大変期待している。山形県に先を越され残念な思いをしていた。我々も一度は舞台に立ちたいので、金額面でアマチュアへの配慮をお願いしたい。また、クラシック音楽や能、狂言等の古典芸能等を適切な料金で鑑賞できるように考えていただけないか？年金生活者には5千円以上は大金である。シルバー割引等があれば助かる。よろしくをお願いしたい。</p>	<p>音楽ホールの大ホールは、優れた音響性能を有し本格的な実演芸術公演に適したものとしてまいりたいと考えていますが、限られた層だけに向けたものではなく、全ての人に開かれ、プロ・市民がともに主役となる施設を目指しています。</p> <p>こうした観点から、施設使用料につきましては、徴収する入場料や使用する客席規模に応じた段階的なものとしていくことを検討してまいります。</p> <p>また、音楽ホールの事業として、幅広い方々が気軽に楽しめる作品の上演、施設や文化芸術に関心を持ってもらうための入門的な企画の実施なども想定しており、あらゆる方々に文化芸術の体験機会を提供する施設を目指しています。</p> <p>今後の管理運営指針の策定過程の中で、貸館や事業のあり方についてさらに具体的に検討してまいります。</p>
45	<p>音楽ホール、楽しみにしている。</p> <p>シンポジウムにも参加し、新しいホールが多様性も考慮された企画である事も、好感が持てた。楽都仙台と言いながら、今、アマチュアの音楽家たちは、発表の会場を確保するのに、四苦八苦。練習会場の確保も大変である。新しいホールが、大ホールのみならず併設される施設が、市民にとって活用しやすい場所になる事を願っている。</p> <p>昨年末、山形市の県民ホールでオペラを鑑賞して来た。合唱を担当していたのは、ほとんど地元の音楽家だった。仙台には、音楽を学べる共学の大学がない。ホールというハード面と同時に、人を育てるというソフト面の育成も考えてほしいと思う。</p> <p>両方揃ってやっとならば楽都仙台になるのではないかな。</p> <p>その為にも、音楽ホールが早く出来る事を願っている。</p>	<p>本施設は、「人・文化・まちを育む創造の広場」を基本理念に掲げ、あらゆる人に文化芸術を届け、多くの方の生きがい・居場所を生み出すことでダイバーシティ（多様性）の推進に貢献する施設としてまいります。</p> <p>また、音楽ホールの事業の方針の一つに「育成」を掲げ、文化芸術に関心を持つ人の裾野拡大から始まり、趣味として活動する人・プロを目指す人・社会貢献やまちづくりのために活動する人・活動を裏から支える人など、それぞれの立場において、より一層技量や能力を高められる機会を多様な形で提供し、本市の文化芸術環境の向上、文化芸術の可能性の拡張につなげてまいります。</p> <p>本施設では大ホール・小ホールに限らず、発表会やワークショップにも対応可能なリハーサル室や様々な広さの練習室など、一連の創造プロセスを支える機能を備えることとしています。貸館システムなども含め、市民の皆様が利用しやすい施設となるよう、設計や管理運営指針の策定過程においてさらに具体的な検討を進めてまいります。</p>

番号	中間案に対する意見の概要	仙台市の考え方
46	<p>一人のクラシックファンとして、今回の計画に大いに期待している。</p> <p>既存の音楽ホールは収容人数が少なく、海外のオーケストラなどは採算の関係で仙台での公演は見合わせる事が多いと聞き及んでいる。</p> <p>2,000人規模のホールが完成すれば、上京しないと聴けないようなコンサートを楽しむ機会が増えるのではと、とても楽しみだ。杜の都仙台にも一つ、音楽の都という装いが加わると更に魅力的な街になると思う。是非実現していただけるようお願いしている。</p>	<p>音楽ホールの大ホールにつきましては、「生の音源に対する音響性能を重視し、視認性に優れ、鑑賞空間として魅力あふれる2,000席規模のホール」とし、これまで仙台で行われてこなかった「大型のクラシック音楽等の公演に対応したコンサートホールとしても、またオペラやバレエなどの総合舞台芸術をはじめ多彩な実演芸術公演に対応した劇場としても、高いレベルで機能を発揮する新しいタイプのホール」とする計画としています。</p> <p>高いクオリティを持った本格的な実演芸術作品の上演にふさわしい環境を備えると同時に、そのようなホールを市民の皆様にもご利用いただくことで、地域の文化芸術環境の充実や多様な人材の育成につなげ、仙台の文化芸術のさらなる発展や交流人口・関係人口の拡大に貢献してまいりたいと考えています。</p>
47	<p>大ホールの計画として「舞台の周りを聴衆が取り囲み一体感を感じられる、サラウンド型のコンサートホール形式への転換を計画する」とあるが、転換の機能をホールに持たせることによる、建設費の高騰が懸念される。転換の機能に費用を使ってしまうことで、本来使わなければならないところへの費用が減額となり、完成したときに、演者が使いにくい、観客が使いにくいホールになってしまうおそれがある。</p> <p>また、転換の機能の設置により、機能維持のためのメンテナンスの費用、故障した時の修繕費、さらに設備の老朽化に伴う設備の更新などに多額の費用がかかってしまうことは明らかであり、少子化に伴う人口減による税収減が明らかな現状においては、「音楽ホール」にこのような設備を設置することは極めて不適切であると考えざるを得ない。</p> <p>仙台フィルハーモニー管弦楽団をレジデントオーケストラとして迎えるのであれば、オーケストラの演奏に適したホールとすることを第一義的に考えるべきであり、オペラ、バレエ、ミュージカル等の上演には、多面舞台の設置が予定されている「新宮城県民会館」が担うべきであると</p>	<p>音楽ホールの大ホールは、「舞台の周りを聴衆が取り囲み一体感を感じられる、いわゆるサラウンド型のコンサート空間に転換する計画」としており、視覚・音響の両面から親密感を得られやすく、様々な楽しみ方をすることができる音楽空間になることから、楽都仙台に相応しいホール形状であると考えています。</p> <p>舞台形式の具体的な転換方式につきましては設計を進める中で決定していくこととなりますが、導入段階のコストのみならず、修繕などに要する費用も考慮しながら、検討を進めてまいります。</p> <p>検討に際しましては、音響コンサルタントや劇場計画の専門家など、多数の方々の知見・知恵を結集させて、今後長きにわたって高い評価を獲得できるホールを目指してまいります。</p>

番号	中間案に対する意見の概要	仙台市の考え方
	<p>思われる。</p> <p>「楽都仙台」を標榜する仙台市が長年の経緯を経て建設する音楽ホールは、各方面から注目されることとなるものと思われるが、転換機能第一、転換機能こそこのホールの一番の特色であるというホールを建設することが、「楽都仙台」が建設する、仙台フィルハーモニー管弦楽団をレジデントオーケストラとして迎えるホールとして正しいことだとは思えない。</p> <p>コンサートホール建設の失敗例として、ニューヨークのエイブリーフィッシャーホール（旧称）がとりあげられることが多いが、最初の設計を誤ってしまうと、後に、いくら多額の改修費によって改修を行っても、よい結果は出ない。</p> <p>現在、日本は、世界でもまれに見る、優れたクラシック音楽に適したホールが多数ある国として知られている。国内に参考とすべきコンサートホールが多数あるのだから、まず、それら優秀なホールを模範とすべきであり、転換機能をホールの特色としようとする考えは明らかな間違いであり、そのような自治体が「楽都仙台」を名乗ることが嘲笑の対象となってしまうことは明白である。</p> <p>クラシック音楽、オーケストラの演奏と、それ以外の音楽での利用については、国内に、渋谷のオーチャードホール、大阪のフェスティバルホール、近隣では山形市の「やまぎん県民ホール」など、参考にすべきホールは数多くあると思われ、いずれのホールも大々的な可変機能は設置されていないことは注目に値するものと思われる。</p> <p>世界的に、素晴らしいと評価されている、ウィーン楽友協会ホールや、アムステルダムコンセルトヘボウ、ボストンシンフォニーホールのように、建設から長い年月が経過しても、「このホールは素晴らしい」と多くの演奏者や観客から評価されるようなホールの建設を目指すことが、「楽都仙台」としての正しいあり方なのではないか。国内には、札幌市や川崎市、福岡市や新潟市など素晴らしい取り組みをしている自治体が多数ある。</p>	

番号	中間案に対する意見の概要	仙台市の考え方
	くり返しになるが、中間案にある「サラウンド型のコンサートホール形式への転換」という考えは正しいとは思えない。やめて下さい。	
48	<p>仙台フィルがレジデントオーケストラと位置づけられ、その意義は非常に大きいと思われる。と同時に仙台フィルにはこの複合施設の理念を踏まえた活動が求められることになる。</p> <p>音楽ホールの単なるヘビーユーザーとしてだけでなく、仙台フィルが自ら「我がまちのオーケストラ」、「複合施設全体の象徴的な存在」となれるよう期待したい。</p>	<p>「楽都仙台」の中心的存在である仙台フィルハーモニー管弦楽団が本施設のレジデントオーケストラとして理念を共有し、ともに成長・発展していくことで、本市の「楽都仙台」としての都市ブランドが一層強化され、新たな魅力や価値の創出につながるものと考えています。今後とも仙台フィルハーモニー管弦楽団と綿密に対話を重ねながら、整備に向けた検討を進めてまいります。</p>
49	<p>新しい音楽ホールができること、嬉しい。仙台市の文化事業に期待している。</p>	<p>音楽ホールの大ホールにつきましては、「生の音源に対する音響性能を重視し、視認性に優れ、鑑賞空間として魅力あふれる 2,000 席規模のホール」とし、「大型のクラシック音楽等の公演に対応したコンサートホールとしても、またオペラやバレエなどの総合舞台芸術をはじめ多彩な実演芸術公演に対応した劇場としても、高いレベルで機能を発揮する新しいタイプのホール」とする計画としています。</p> <p>高いクオリティを持った本格的な実演芸術作品の上演にふさわしい環境を備えると同時に、そのようなホールを市民の皆様にもご利用いただくことで、地域の文化芸術環境の充実や多様な人材の育成につなげ、仙台の文化芸術のさらなる発展や交流人口・関係人口の拡大に貢献してまいりたいと考えています。</p>
50	<p>響きの良いホールを期待している。2,000 人規模のホールという、ただっ広いだけで音がスカスカになってしまうという懸念がある。ぜひ、アンプやマイクなどに頼らない生の音が美しく響くホールにして欲しいと思う。</p>	<p>音楽ホールの大ホールは、本市の文化芸術の状況およびホール施設の状況を踏まえ、「生の音の響きを重視し、クラシック音楽等に対応したコンサートホール形式」「オペラやバレエなどの総合舞台芸術をはじめ多彩な実演芸術公演に対応したプロセニウム劇場形式」の二つの形式に転換可能なホールといたしました。いずれの形式においても、アンプやマイクに頼ることなく、どの座席でも生の音・肉声がしっかりと聞こえるホールとする計画となっています。</p> <p>また、優れた音響性能を有するホールとするために、国内外の様々なホールの音響設計に携わ</p>

番号	中間案に対する意見の概要	仙台市の考え方
		<p>った事業者に音響コンサルティング業務を委託し、様々な助言・提案を得ているところです。設計段階においても引き続き音響コンサルタントや劇場計画の専門家など、多数の方々の知見・知恵を結集させて、今後長きにわたって高い評価を獲得できるホールを目指してまいります。</p>
51	<p>あれもこれもではなく、フルオーケストラをどこに座っていてもきちんと聴ける、演奏者も自分の出した音が聴こえるコンサートホールにしてほしい。</p> <p>ここは日本・仙台の地である。</p> <p>移動できる椅子席等は愚の骨頂である。やめてください。</p>	<p>音楽ホールの大ホールは、「舞台の周りを聴衆が取り囲み一体感を感じられる、いわゆるサラウンド型のコンサート空間に転換する計画」としており、視覚・音響の両面から親密感を得られやすく、様々な楽しみ方をすることができる音楽空間になることから、楽都仙台に相応しいホール形状であると考えています。</p> <p>どの座席においても、生の音・肉声がしっかりと聞こえるホールとする計画であり、優れた音響性能を有するホールとなるよう、引き続き検討を進めてまいります。</p>
52	<p>仙台市を本拠地とするアマチュアオーケストラとして活動している。</p> <p>長年にわたるオーケストラ運営を通して、特にクラシック音楽の実演団体にとっては、仙台市における公的な環境整備・サービス提供について必ずしも十分ではない点があると認識している。</p> <p>フル編成のオーケストラを舞台に収容できるステージ面積がある会場を増やしてほしい。</p> <p>現在、仙台市内に立地するコンサートホール及び多目的ホールのうち、フル編成のオーケストラを収容できるステージを備えているホールは概ね 800 名以上を収容できるホールであると認識しており、これに該当する会場は 8 会場ある（仙台サンプラザ、宮城県民会館、イズミティ 21、仙台市民会館、川内萩ホール、電力ホール、仙台国際センター、青年文化センター）。これらホールのうち、クラシック音楽の演奏に際し音響性能の問題が少なく、かつ比較的安価に使用できる公設の会場（宮城県民会館、イズミティ 21、仙台市民会館、青年文化センター）については、会場の抽選倍率が大変高くなっている。例を挙げると、クラシック専用ホールである青年文</p>	<p>音楽ホールの小ホールにつきましては、本施設の開館後に市民会館（小ホール 500 席）、戦災復興記念館（記念ホール 270 席）の更新を行わない方向で検討を進めており、これらのホール機能の受け皿となることも考慮のうえ、幅広い市民文化活動に対応できることを主眼に 350 席程度といたしました。</p> <p>本施設の基本構想および本計画においては、敷地条件その他の設計上の制約、整備事業費等を勘案のうえ想定延床面積および諸室構成案を策定しています。一般的に、ホールの席数や舞台面積が増大すると舞台機構や舞台裏の空間等もそれに見合った機能・規模のものとする必要があり、小ホールをご意見のような規模のものとすることは困難であると考えています。</p> <p>一方、大ホールは、本市の文化芸術の状況およびホール施設の状況を踏まえて 2,000 席規模のホールとする計画ですが、市民の文化活動のさらなる発展のため、集客数は 2,000 人に満たない場合であっても大ホールを利用できるよう、入場料や使用する客席規模に応じた段階的な使用料を定めることとしています。</p> <p>ご意見のとおり、仙台フィルハーモニー管弦楽</p>

番号	中間案に対する意見の概要	仙台市の考え方
	<p>化センターコンサートホールでは、週末の抽選倍率は 40～50 倍程度となっているし、各種興行に使用可能な他ホールでは 100 倍を超えることも珍しくない。特にオーケストラの場合はフル編成が入る会場を選ばざるを得ないものの、このような会場の抽選には規模・ジャンルとも多様な団体が参加しているため、【オーケストラは中小規模の団体と比較して、相対的に本番会場確保の競争環境が厳しい】ものとなっており、団体運営上の大きな課題となっている。</p> <p>なお、仙台市内には他にも多くのホールが立地していますが、各区の文化センターについてはステージの広さが十分でなく、フル編成のオーケストラにとっては練習での使用は可能でも、演奏会の本番で使用するのは困難な環境となっている。</p> <p>新たな音楽ホールの整備に伴い、現在の仙台市民会館は廃されるものと承知しているが、この場合現行の計画では市内においてフル編成のオーケストラが舞台に乗れる会場の総数は変わらないこととなる。なおかつ、新音楽ホールの大ホールは仙台フィルをはじめとしたプロ等の公演・興行による稼働が中心となることが想定され、市民団体がこのホールを確保する難易度は高くなることを見込まれることとなると、将来的に市民オーケストラにとっての本番会場確保はさらに厳しいものとなる。</p> <p>現状の基本計画では、小ホールは座席数 350・舞台の間口は 6 間となっているが、この規模のホールはすでに各区の文化センター等で十分な数が整備されているほか、今後の各種開発（都心部の再開発等を含む）においても比較的整備が容易な規模であり、あえて新音楽ホールに設置するには小規模に過ぎるのではないかと思われる。</p> <p>オーケストラを運営する者の立場としては、【小ホールは座席数 700 前後、舞台の間口は 12 間程度・奥行きは 13～14m 程度】の規模として整備することにより、フル編成のオーケストラの公演が開催可能な会場となることから、ぜひここ</p>	<p>団をはじめとしたプロの公演での利用も多いものと考えられますが、同楽団の演奏会やリハーサル の 主 要 会 場 が 本 施 設 に 移 行 す る こ と に よ り、青年文化センターコンサートホールにつきましては、利用申込に係る競争率が一定程度改善するものと想定されます。</p> <p>また、貸館システムにつきましては、本市の様々な市民利用施設に導入されている「市民利用施設予約システム」とは異なる独自の予約方式の導入を検討するなど、文化芸術の総合拠点という位置づけおよび利用者のニーズを踏まえたものにしていきたいと考えており、今後の管理運営指針の策定過程の中でさらに具体的に検討してまいります。</p>

番号	中間案に対する意見の概要	仙台市の考え方
	<p>に示した規模で整備していただきたい。(規模としては陸前高田市民文化会館(奇跡の一本松ホール)が類似しており、参考になるかと思われる。)</p> <p>また、大ホールの利用については、プロだけでなくアマチュアの市民団体であっても利用しやすい運用ルールや使用料の設定をご検討いただきたい。使用料については、現在の仙台市民会館やイズミティ21並みの水準としていただけると大変ありがたい。</p> <p>ちなみに、オーケストラをはじめとした大規模団体の会場確保を容易にする方法としては、大規模な会場の使用は大規模団体を優先的に割り付けるなどの方策も考えられるが、団体間の公平性確保の観点、及び大規模会場の数が絶対的に不足していることから困難を伴うものと思う。ホールを新規に整備するまたとない機会に、適切な規模・運用によるホールが整備されることを願ってやまない。</p>	
53	<p>オーケストラの合奏練習が可能な練習室・会議室等を増やしてほしい</p> <p>オーケストラの練習においては、収容人数の規模及び音響上の事情から、最低でも140～150㎡の練習室・会議室を必要とする。当団においては、日常の練習時にはこの規模の施設(青年文化センター練習室1または4・太白区文化センター展示ホール・旭ヶ丘市民センター等の大規模ホールまたは会議室を備えた市民センター)を使用しているが、本番会場と同様に、これらの練習会場においても抽選倍率は高止まりしており、会場の確保には苦慮しているところである。加えて、市民センターの中にはオーケストラの練習に十分な面積を持ちながら、近隣施設との兼ね合いでオーケストラが利用できない会場もあり、オーケストラが練習に使用可能な会場の数はカタログスペックで見ると以上に少ない状況となっている。</p> <p>現状の基本計画では、リハーサル室を1室・150㎡規模の練習室を1室整備することとしているが、【リハーサル室を1室・150㎡規模の練習室</p>	<p>本市においては、オーケストラや吹奏楽団など多くの市民文化団体が精力的に活動しています。本施設の基本構想段階においては、練習室は中規模・小規模のみを想定しておりましたが、こうした団体の練習場所が不足しているという声を踏まえ、本計画において新たに、150㎡程度の大練習室を1室設けることといたしました。</p> <p>オーケストラの練習場としては、この大練習室と音楽リハーサル室の2室が中心となるものと考えていますが、このほか舞台芸術リハーサル室等の活用の可能性についても、今後の設計や管理運営指針の検討過程の中で、室ごとの特性・性能や他の利用目的との兼ね合いも勘案しながら検討してまいります。</p>

番号	中間案に対する意見の概要	仙台市の考え方
	<p>等を2室以上整備する】こととして計画を修正し、会場を整備していただきたい。</p> <p>なお、音出し可能な防音性を備えていれば、部屋の位置付けは必ずしも練習室でなくとも、(運用上の課題はありますが) 会議室や各種工房やワークショップスタジオ、創作アトリエに防音性を持たせることで練習室を兼ねることも考えられる。</p> <p>なお、大規模練習室の運用においては、平日・休日の稼働率の平準化などが課題になるものと見込まれるが、市民団体の活動においては休日の関係上、週末の活動が中心となることは避けがたいものと考えている。この点を踏まえ、十分な数の練習環境を整備していただけるよう検討をお願いしたい。</p>	
54	<p>現状の基本計画において、10㎡規模の小規模練習室を多数設けることとしているが、これは従来の施設では見られなかった取組みであり、ユーザーの立場からしても望ましいものと考えられる。一方で、現在の青年文化センターパフォーマンス広場に見られるような「予約不要で誰もが音出し可能な広場」については、楽器奏者としては日ごろの練習に活用する上で大変有用であるとともに、利用者が新音楽ホールに足繁く通う大きな理由となることから、施設の活性化に大きく寄与するものと見込まれる。加えて、広場には避難所設備のデモンストレーションなどといった防災に関する啓発の機能を付加することにより、震災メモリアル拠点としての活性化にも寄与できるものと思う。</p> <p>立地を考慮すると防音性能についてはさほど高くなくても運用可能かと見込まれるが、外の風が吹き込む構造だと楽器の練習に支障をきたすので、この点考慮して自由に楽器の練習をできるスペースを整備していただけるよう、ご検討をお願いしたい。</p>	<p>令和2年度に実施した市内ホール施設の体系整理では、青年文化センターは音楽ホールと同じく、新たな文化芸術の創造・発信に積極的に取り組む拠点と位置付けています。敷地の制約もある中で、新たなホールの公演機能や練習・創造支援機能を具体化する上では、それぞれの施設が適切に役割分担を図ることが必要と認識しており、音楽ホールにおいて、パフォーマンス広場と類似の機能を有する諸室は予定していないところですが。</p> <p>一方で、今般の音楽ホールには、ご指摘のように市民の皆様の日常的な文化活動の場として、計12室程度の練習室群を設ける予定であることから、活動の目的に合わせてそれぞれの施設をお使いいただきたいと考えています。</p>
55	<p>吹奏楽に携わる小中高生、大学生や社会人が「憧れる会場」としての音楽ホールに大きな期待を持っている。</p> <p>また、2,000席規模のホールとして国内初のサラ</p>	<p>「生の音の響きを重視し、クラシック音楽等に対応したコンサートホール形式」「オペラやバレエなどの総合舞台芸術をはじめ多彩な実演芸術公演に対応したプロセニウム劇場形式」、両方の</p>

番号	中間案に対する意見の概要	仙台市の考え方
	<p>ウンド型のコンサートホール形式への転換が可能な大ホールについても、素晴らしい音響空間になることが予想され「殿堂」として多くの吹奏楽ファンに歓迎されるものと確信している。</p> <p>吹奏楽コンクール全国大会誘致の可能性が広がり、多くの市民の方に吹奏楽の魅力を提供できるようになる。この中間案を基に予定通り施設が開館されるよう、当局の尽力を切に願っている。</p>	<p>形式において高いレベルで機能を発揮するホールとすることが重要と考えており、本計画の策定にあたっては、国内外の様々なホールの音響設計に携わった事業者に音響コンサルティング業務を委託し、優れた音響性能の実現のために様々な助言・提案を得ているところです。</p> <p>舞台形式の具体的な転換方式につきましては設計を進める中で決定していくこととなりますが、設計段階においても引き続き音響コンサルタントや劇場計画の専門家など、多数の方々の知見・知恵を結集させて、今後長きにわたって高い評価を獲得できるホールを目指してまいります。</p>
56	<p>多目的ホールは、宮城野原の県のホールに任せて、こちらはクラシック専用のホール、願わくはパイプオルガンもある 2,000 席以上のホールを望む。</p> <p>震災メモリアルは小さく。</p> <p>よろしく願いたい。開館を楽しみにしている。</p>	<p>本市では音楽をはじめ多様な文化芸術分野において市民による活発な文化芸術活動が展開され、「楽都仙台」「劇都仙台」といった都市個性が形づくられています。音楽ホールの大ホールは、こうした本市の文化芸術の状況およびホール施設の状況を踏まえ、「生の音の響きを重視し、クラシック音楽等に対応したコンサートホール形式」「オペラやバレエなどの総合舞台芸術をはじめ多彩な実演芸術公演に対応したプロセニウム劇場形式」の二つの形式に転換可能なホールといたしました。</p> <p>両方の形式において高いレベルで機能を発揮するホールとすることが重要と考えており、本計画の策定にあたっては、国内外の様々なホールの音響設計に携わった事業者に音響コンサルティング業務を委託し、優れた音響性能の実現のために様々な助言・提案を得ているところです。</p> <p>パイプオルガンにつきましては、可動式の舞台音響反射板・客席機構を有する転換型のホールとすることから、設置は予定していないところですが、引き続き音響コンサルタントや劇場計画の専門家など、多数の方々の知見・知恵を結集させて、今後長きにわたって高い評価を獲得できるホールを目指してまいります。</p> <p>なお、本施設は、音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点それぞれのミッション（使命）を果たしつつ、文化芸術と災害文化が会う場となる</p>

番号	中間案に対する意見の概要	仙台市の考え方
		<p>こと、連携した事業を展開することが大きな特徴となっております。仙台ならではの複合施設となるよう、今後の管理運営指針の策定過程の中で検討してまいります。</p>
57	<p>「交流と創造の循環」という表現が印象に残った。地元で公共ホールを活用させて頂きながら創作ミュージカルの上演活動を通じ人材育成活動を実施している私どもにとって、大変魅力的な理念に感じた。</p> <p>また「市民利用施設予約システム」とは異なる独自の予約方式の導入を検討する」としている点についても、現状ホール施設予約で苦労しているところから少し改善されるのではないかという期待が持てた。</p> <p>東日本大震災後、毎年3月に関連する創作舞台を上演しているが、私どものそうした活動も、この施設との連携もしくは活用を通じて復興や減災への取組をさらに深化させる機会を創出できるのではと感じた。</p> <p>音楽に限らずプロアマを問わず、地元で舞台の活動するものにとって「いつかはあの大ホールで!」と思わせるような、あこがれの劇場、仙台のブランド力発信のシンボルとなるような劇場となることを大いに期待している。</p>	<p>本施設は、「人・文化・まちを育む創造の広場」という基本理念のもと、市民とプロがともに主役となる文化芸術の創造拠点となり、次世代を担う「人」を育成し、仙台ならではの創造・発信により「文化」を育み、「まち」の発展に貢献する施設を目指してまいります。また、音楽ホール、中心部震災メモリアル拠点はともに東日本大震災を起点に持つものであり、これらの拠点の複合施設という特性を生かし、震災に想いをいたす事業なども展開してまいりたいと考えています。</p> <p>今後の管理運営指針の策定過程の中で、貸館や事業のあり方についてさらに具体的に検討してまいります。</p>
58	<p>日本の文化施設は箱もの行政に翻弄されてきた。立派な施設を建設後は維持運営費の予算なく、ソフトは貧しく形骸化した立派な建物が地方各地で化石化している。本施設では建設費だけでなく、維持運営費の確保を重要視してほしい。</p>	<p>本施設は、仙台・東北の文化芸術を牽引する拠点として、また、災害を乗り越えるための知恵や術である災害文化を創造する拠点として、施設自らが主体となって多様な事業を展開することを想定しています。稼働率の向上や外部資金獲得など収入増の取組み、業務改善などの支出減の取組みを不断に行いながら、必要な事業費の確保に努めてまいりたいと考えています。</p> <p>また、長きにわたり安全に利用される施設となるよう、「仙台市公共施設総合マネジメントプラン」に則り、建物の計画的な管理・保全を行ってまいりたいと考えています。</p>
59	<p>アメリカ在住時、地元の交響楽団が地域に深く溶け込み、庶民の大切なリフレッシュとして愛されていることに驚いた。団員とも親しみ、年間登録をして毎週土曜の夜はコンサートを楽しん</p>	<p>音楽ホールの事業としては、気軽に楽しめる短時間公演やランチ付き公演等の上演、施設や文化芸術に関心を持ってもらうための入門的な企画の実施なども想定しており、あらゆる方々に</p>

番号	中間案に対する意見の概要	仙台市の考え方
	<p>でいた。また東欧ではオペラが庶民の娯楽であった。それに比して日本では、クラシックやオペラ、美術展など敷居が高く、かしまった学習モードで鑑賞する場も多く、入場料や雰囲気の間でも一般庶民の楽しみとは言い難い。芸術を特別なものにせず、広く一般に開放し享受できるものであってほしい。</p>	<p>文化芸術の体験機会を提供する施設を目指しています。また、レジデントオーケストラとなる仙台フィルハーモニー管弦楽団には、楽団員が日常的に本施設で活動し、様々な形で市民と触れ合っていくことで、「我がまちのオーケストラ」としての存在感を高めていくことを期待しています。</p> <p>今後の管理運営指針の策定過程の中で、事業のあり方についてさらに具体的に検討してまいります。</p>
60	<p>市民が自ら企画、主催して、素晴らしい芸術享受の機会を市民に提供できる土壌を養い、実現のために助成事業制度や会場費の減免など設けてサポートしてほしい。</p> <p>市民が自らの力で実施した例として、小樽、大分、横浜など地方各地の市民が協力してスロバキア国立オペラのソリストたちを招聘し、市民による市民のためのオペラを開催した例を紹介したい。彼の相談を受け、私自身、東京3会場で実施した。このような活動を実現できる場として、また市民自身がそれにチャレンジしようとしてできるフレキシブルな環境を望みたい。</p>	<p>音楽ホールでは、本市の文化芸術の発展に向けた人材育成を事業の柱の一つと位置づけており、コーディネーター、社会包摂などのプログラムを企画するリーダー的人材、舞台技術者など、多様な人材を育成するとともに、地域の文化団体の取組みに対する伴走型支援やネットワーク形成促進などに努めてまいりたいと考えています。</p> <p>今後の管理運営指針の策定過程の中で、事業のあり方についてさらに具体化してまいります。</p>
61	<p>音楽ホールと県民会館との役割分担・連携関係の具体的内容についてほとんど記載されていない。これも今後の計画課題なのかもしれないが、施設のあるべき方向性を明確にするためのかなり根本的な部分だと思うので、この段階である程度明確にしておく必要があるような気がする。</p>	<p>令和2年度に実施したホール体系の整理において、音楽ホールと新県民会館の役割分担を整理しています。</p> <p>令和10年に開館予定の新たな宮城県民会館では、県民に優れた作品の鑑賞機会を提供することに重きが置かれており、一方で本市音楽ホールにつきましては、プロの芸術家だけでなく、市民の創造活動の場ともなり、仙台の文化芸術の振興を総合的に推進する拠点を目指しています。また、総合性・汎用性を重視する新県民会館に対し、音楽ホールは生の音源に対する音響性能を重視し、サラウンド型のコンサートホール形式に転換可能な大ホールとするといった点で役割分担を図っています。</p> <p>新県民会館をはじめとする市内文化施設、周辺自治体のホール等との連携により宮城・東北の魅力のより一層の創出・発信を図ることは重要であると考えており、施設開館に向け、連携の具</p>

番号	中間案に対する意見の概要	仙台市の考え方
		体的なあり方などについてさらに検討してまいります。

■中心部震災メモリアル拠点に関するもの

(7件)

番号	中間案に対する意見の概要	仙台市の考え方
62	<p>宮城県在住の画家加川広重さんは、東日本大震災後、震災をテーマに創作活動している。</p> <p>心に響く作品ばかりだが、とても大きくて中々展示も難しいようだ。</p> <p>震災メモリアル拠点のシンボルとして、是非加川さんの作品を常設展示していただきたい。</p> <p>常設展示も展覧会も当分予定ないようで、せっかく宮城にこんな素晴らしい画家がいらっしやるのに、目にする機会が少ないのはとても勿体ない。</p>	<p>中心部震災メモリアル拠点は、複合整備される音楽ホールと連携し、文化芸術を活用した災害伝承や啓発等の取組みを実施することとしています。いただいたご意見も参考にしながら、絵画、アニメ、映像などを活用した展示等について検討してまいります。</p>
63	<p>基本計画書については何度も震災を後世に伝えるため(P4)メモリアル等防災都市にふさわしいなど(P8他)が書かれている。そもそもデジタル化する社会の中で建物(箱物)が相応しい計画なのか疑問である。消費者教育の中ではSDGsなど小さな時から繰り返し教育される事で身に付くと言われている。一度震災を受けた人は多分怖さを一生忘れない事も付け加えておく。</p>	<p>中心部震災メモリアル拠点は、沿岸部のみならず市域全体の震災経験を後世に伝える拠点が必要との本市震災メモリアル事業方針を踏まえ整備を行うものでございます。災害を乗り越える知恵や術を日常生活や社会の仕組みに定着させる「災害文化の創造拠点」としてその役割を果たしていけるよう、いただいたご意見を参考に引き続き事業のあり方を検討してまいります。</p>
64	<p>災害拠点としている新しい市役所やこのメモリアル拠点などについては集まるという根拠に乏しい。震災は何処で起きるのか予想が不可能であり3.11時も近くに集まっている。</p> <p>市は当初卸町に災害備蓄センターを開設するとの事だったけれどその構想も無くなり、結局地下鉄の赤字などを補填する手段として青葉エリアに拠点を移したと考えている。東西線も市が開発した地区の売れ残り対処で作られたもので結局赤字。</p>	<p>中心部震災メモリアル拠点につきましては、災害発生に備えて、大量に物資を備蓄するなどの直接的な役割を担う施設ではなく、災害を乗り越える知恵や術を日常生活や社会の仕組みに定着させる「災害文化の創造拠点」として整備するものでございます。</p>
65	<p>仙台らしさを打ち出すためには災害文化を仙台のアイデンティティにすることが大切であると考える。本施設や取組みを仙台のまちづくりや仙台の発展に生かしていかなければならない。</p>	<p>本市は、東日本大震災を経験したからこそ、時間の経過や社会の変化があっても災害に備えることができる知恵や術を文化として生活や社会に組み入れることの必要性を認識いたしました。</p> <p>ご意見のとおり、自然と共生しながら心豊かに生きるスタイルを市民の皆様と共有し、さらには仙台から世界に広めていくことは、防災環境都市・仙台のアイデンティティとして重要であり、本市のさらなる発展に大きな意味を持つと</p>

番号	中間案に対する意見の概要	仙台市の考え方
		考えています。
66	「災害文化」というキーワードが理解されにくいため、「災害文化」＝「防災」となってしまうないように気を付けなければいけない。	「災害文化」は、災害の発生や被害を防止する「防災」の考え方や取組みを含むものと認識しています。一方、災害の発生をコントロールすることはできず、被害を完全に防止することはできないため、市民一人ひとりが居住地の地域性や災害のメカニズムを知り、災害をしなやかに乗り越える生き方を文化としていただくことが重要と考えています。中心部震災メモリアル拠点が、多様な主体をつなぎ、対話や交流により「災害文化」を創造し続けることで、新たな生活スタイルを定着させる拠点となるよう、事業のあり方や発信方法について検討を行ってまいります。
67	「災害文化アーカイブ」について、何をアーカイブするのか。東日本大震災のみならず災害アーカイブ施設は各地に沢山あるし、仙台でそれ以上にオリジナルで面白いものをつくるにはかなりの工夫が必要だと思う。「災害文化創造のエンジン」についても、重要な着眼点だと思うが、具体的に何をするのかでその成果や魅力が大きく変わりそうだ。他との差異化・魅力創出の方策を考える必要がある。	本施設では「災害文化アーカイブ」として、過去の災害の記憶のみならず、自然と災害、防災の科学や技術、災害と芸術などの幅広いテーマの資料や情報について、体系的にアーカイブする予定としています。現在その一環として、東日本大震災のみならず、過去の地震や津波の被害、年々脅威を増す台風や大雨の被害など、様々な災害の記録写真や映像等の資料を共有できる「災害記録共有アーカイブ SORA」を構築しており、本アーカイブを活用したワークショップ等をモデル事業として展開することで、地域や学校における防災・減災の取組への活用等を目指していきたいと考えています。そのほか、各地にある既存アーカイブの活用方法等を紹介する専門人材を配置することで、重層的に災害を知ることのできる機能を検討してまいります。 また、「災害文化創造のエンジン」となる創造事業においては、災害への関心や課題を持つ市民の皆様と事業者、研究機関等を繋げ、対話や交流により新たな災害文化の創造に繋げるとともに、その動きが次の交流や連携を生み、社会全体で災害文化創造を推進する支援事業や研究事業等を想定しているところです。
68	これまで東北各地の伝承館やアーカイブ、メモリアル施設を訪れた。私たちの被災地支援活動で蓄積された資料や被災者の創作物も、福島大	古来、人は災害に遭ってもそこから立ち上がり、助け合い、復興を果たしてきたものと認識しています。中心部震災メモリアル拠点は、東日本大

番号	中間案に対する意見の概要	仙台市の考え方
	<p>学の求めに応じて、震災資料として一部寄付や寄託をしてきた。そうした施設では貴重な資料が展示され、いかに想像を超えた大きな被害に見舞われたかや、今後の対処法についてなど、学びが多いことは間違いない。</p> <p>しかし避けられない大災害について伝え、学ぶ側面に偏り、そこから立ち上がる人々の希望に向かう側面にも光を当てた施設はほとんど無かった。新たに設けるメモリアル施設はぜひ、厳しい現実と同等に、すべてを失っても立ち上がってきた人間の素晴らしさと希望にも光を当ててほしい。たとえば復興の過程で被災地の子どもたち、人々がつくってきたものや、語った言葉、彼らの生きざまの写真は、大いなる希望だ。絶望とともに希望の光も射すのが文化施設の役割ではないだろうか。</p>	<p>震災の伝承のみならず、過去の様々な災害を扱う伝承館やメモリアル施設、復興に携わってきた方々など多様な主体と連携し、災害を乗り越えるための知恵や術（災害文化）を創造し、災害文化が定着した新たな生活スタイルを呼びかける拠点を目指しています。</p> <p>災害に向き合い、再び立ち上がる姿や言葉なども災害文化と認識しております。本施設においては、災害があっても、未来への希望を感じていただけるような展示や企画等について、文化芸術の手法も活用しながら実施してまいりたいと考えています。</p>

■その他

(1件)

番号	中間案に対する意見の概要	仙台市の考え方
69	<p>個人的には、音楽ホールより、今年で築40年経ち老朽化の進む体育館の建て替えを優先検討すべきだと思う。</p> <p>今の体育館は、現在となつては、国際大会も大規模コンサートも開催しづらい。理由として、第一競技場が固定席+可動席でも約5,700席と少ないし、バリアフリー化も不十分なことがあげられる。現代の大規模コンサートに対応する為には、少なくとも県の総合体育館並みの座席数7,500人規模にし、バリアフリー化、大型ディスプレイ設置など対応する必要がある。尚、体育館の大規模改修が計画されている様だが、単なる延命措置では最近の需要に対応できないと思う。</p>	<p>スポーツ施設については、仙台市公共施設総合マネジメントプランに基づき、計画保全年数を踏まえながら長寿命化を図ることが基本となっています。仙台市体育館の計画保全年数は60年間となっているため、今後の大規模改修では各種設備等の老朽化等を踏まえた適切な長寿命化改修や最大限のバリアフリー化改修等を実施し、引き続き、多くの皆様に安全にご利用いただけるようにしてまいりたいと存じます。なお、防音工事による遮音効果に限界がある中、多くの方が施設に隣接して居住されているという現状を踏まえると、当該施設において大型コンサートを開催することは困難と考えています。</p>